

I 青果情報

1 6月下旬～7月中旬の経過

気 象	6月下旬は、台風7・8号が連続で通過したことで記録的な大雨となった所もあった。このため、降水量は東日本日本海側を除いて全国的に平年より多く、旬間日照時間は東日本日本海側で多く、東日本・西日本太平洋側及び沖縄・奄美で少なかった。 7月に入ると、暖かい空気が流れ込みやすかった北日本で気温が平年よりも高かった。中旬は全国的に高気圧や暖かい空気に覆われやすく、気温は北・東・西日本でかなり高かった。上旬から中旬にかけて局所的に線状降水帯が発生したり台風9号が列島を通過する等、地域全体の旬降水量は平年並であっても局所的・瞬間的に大雨となることがあった。
-----	---

野菜類

入荷量	「キャベツ類」「レタス類」「たまねぎ」を中心に入荷。 7月上旬は天候不順・定温・降雨の影響で多くの品目で入荷が不安定となり、中旬は梅雨明け後の高温・干ばつで葉物を中心に品質低下や数量減が目立った。 「ねぎ」は中旬、北海道・東北産に切り替わる中、気温上昇に伴う品質低下が散見された。「ばれいしょ類」は上旬で静岡産が終了、関東産も少なかったことから少量基調となった。 野菜全体では、6月下旬から7月中旬までの入荷量は 91,198t（前年比 89.7%）と前年をかなり下回った。
相 場	梅雨明け後の気温上昇に伴う数量減で「キャベツ類」「レタス類」等の一部品目では相場が上昇した。「きゅうり」「トマト」等の果菜類も曇雨天の影響等から産地の切替が進まず、入荷量が伸び悩んだことから前年を上回る価格が続いた。「なす」は天候不順の中でも特売需要で引き合い強く、高値が続いた。 野菜全体では、6月下旬から7月中旬までの価格は 315 円/kg（前年比 109.1%）と前年をかなり上回った。

果実類

入荷量	「すいか類」「もも類」「メロン類」を中心に入荷。 ひさしぶりに梅雨らしい降雨量となり、果実の生育は全般的に良好であった。ほぼ全ての品目で前進出荷傾向となり、「もも類」「すもも類」は品種の切り替わりが早まり、販売では苦戦もみられた。「メロン類」は北海道産が豊作傾向で大玉中心となった。 果実全体では、6月下旬から7月中旬までの入荷量は 23,660t（前年比 95.3%）と前年をやや下回った。
相 場	販売金額は「もも類」「すいか類」「ぶどう類」の順に大きかった。 「すいか類」は6月下旬に涼しい日が続いたことから消費が伸びず、荷動きが滞留したことから前年を下回る価格での販売が続いた。 果実全体では、6月下旬から7月中旬までの価格は 606 円/kg（前年比 99.3%）と前年並であった。